

男子決勝戦評

ジュニアファイブ（千葉県）日光フェニックス（栃木県）

JC カップ 2013 男子の決勝も、千葉県代表のジュニアファイブと栃木県代表の日光フェニックスとい招待チームどうしの対戦となった。

1Q

立ち上がり、ジュニアファイブはジャンプショットを中心に攻撃を組み立てる。その後もジュニアファイブ⑫が果敢にドライブを仕掛ける。一方、日光フェニックスはマンツーマンディフェンスで相手の攻撃を防ごうとするものの鋭いドライブにファウルが目立つようになる。その後もジュニアファイブは順調に得点を重ね、15-2と大量リードで終了。

2Q

両者、堅守で一進一退の攻防でスタート。その後は、ジュニアファイブのジャンプショットが決まり、順調に点数を積み重ねる。ジュニアファイブ⑫は、1Qから連続の出場であったが、攻撃の起点となり、チームのオフェンスを組み立てていく。日光フェニックスも攻撃の機を伺うが、ジュニアファイブのゾーンプレスの攻略ができないまま、タイムアップ。27-6で前半を終了した。日光フェニックスの追い上げに期待したい。

3Q

後半の立ち上がり、日光フェニックスはドライブで果敢に相手ディフェンスを崩そうとするものの、インサイドの堅い守りに阻まれ打ちきれない。一方、ジュニアファイブは素早い速攻をしかけ、相手のファウルを誘う。日光フェニックス⑤は、身長こそないが、抜群の運動量とジャンプ力で、オフェンスリバウンドをもぎ取りそのままシュートするなど、反撃を試みるも3Q、15-12と点差をつめることが出来ず42-18で3Q終了。

4Q

日光フェニックス⑧のアウトサイドで反撃したいところだが、思うようにショットが決まらない。ジュニアファイブは、リバウンドからの素早い速攻で攻撃の手を緩めない。その後、日光フェニックス⑧がアウトサイドでショット決め、日光フェニックス④がインサイドで攻めるなど攻撃を組み立てるが、いずれも散發で終わり相手ディフェンスを攻略することがなかなかできずに、そのままタイムアップ。素早い速攻と巧みな攻撃で相手を圧倒した千葉県代表のジュニアファイブが、49-25でジュニアファイブの初優勝でJCカップを手に入れた。

主審：松浦 恭寿

副審：鈴木 規朗

15 - 2

12 - 4

15 - 12

9 - 7

ジュニアファイブ 49 - 25 日光フェニックス

(文責：山崎 一樹)